



障がいを超えた

お笑いライブ

9月19日、イオンモール直方で寝たきり芸人・あそどつぐさんによるネタ斬りライブを開催しました。市の障がい者差別解消啓発事業の一環で、障がいのある人への理解促進を図るために実施。あそどつぐさんは生まれつき、筋力が徐々に低下していく脊髄性筋萎縮症という病気を患っていますが、芸人として人々に笑顔を届けています。

ネタ斬りライブでは、寝たきりの日々を自虐ネタにしたギャグ等で、会場を笑いの渦に巻き込んでいました。ライブを観覧した池上美千代さん(42)は「障がいのある人もない人も、普通に暮らせる社会になってほしいと感じた」と話しました。



ブラインド

サッカーを体験



音を頼りにボールを蹴る

市体育館でブラインドサッカーチーム「LEE O STYLE」北九州」によるブランドサッカー体験イベントを実施しました。障がいの有無にかかわらず市民にスポーツ競技を楽しんでもらおうと、市などが企画したものです。

体験イベントには、子ども44人と大人29人が参加。アイマスクをした状態でサッカーをする難しさや仲間の声の心強さを体験したようでした。直方西小の合谷優斗さん(10)は「最初は怖かったが、周りの声がとても頼りになった」と話しました。

生活困窮者らを

法律面からサポート

10月7日、市と福岡県弁護士会、福岡県弁護士会筑豊支部、法テラス福岡の4者で「のおがたりーガルエイドプログラム基本合意書」を締結しました。生活保護受給者や生活困窮者らが抱える多重債務問題、離婚・相続等の問題、労働問題などを弁護士が市のケースワーカーと協力して法律面から支援します。

この締結により、市では11月以降、毎月第3金曜日の午後2時から4時までの1時間2枠、市庁舎内にて、弁護士が無料で法律相談を受けます。市長は「筑豊地区で初となる取り組み。直方市から広がっていければ」と期待を込めました。



水位の目安を

市民らがペイント

10月7日、地元住民や直方市、国土交通省遠賀川河川事務所、福岡県直方県土整備事務所、(公財)福岡県下水道管理センターが協力して、遠賀川中流浄化センター放流渠と植木老良ポンプ関連施設の柱などにペイントをしました。

災害時の共助への認識や市民の防災意識の向上を目的に、洪水を安全に流すことができる水位である「計画高水位」の目安となる高さに塗装しました。



直方市が「地方版IoT推進ラボ」に選定

9月6日、経済産業省の「地方版IoT推進ラボ」（第五弾）に直方市が選ばれました。地方におけるIoT（モノのインターネット）やAIの活用などの取り組みを、国が専門家の派遣や最新情報の提供等で支援するものです。今後、市では「直方市IoT推進ラボ」として、中小企業の人手不足の解消や生産性の向上に向けて取り組んでいきます。



10月16日に行われた認定証授与式の様子

直方市IoT推進ラボ IoT Acceleration Nogata city Lab

◆事務局
直方市IoT推進ラボ事務局
(直鞍産業振興センター別館内)

事業の内容

ポイント① 企業の生産性をUP

IoTやAIの技術を導入することにより、市内中小企業の生産性を向上させます。

ポイント② 若者の就労促進

地元企業の付加価値を増大させることで、新たな雇用を創出します。

ポイント③ 地域経済の活性化

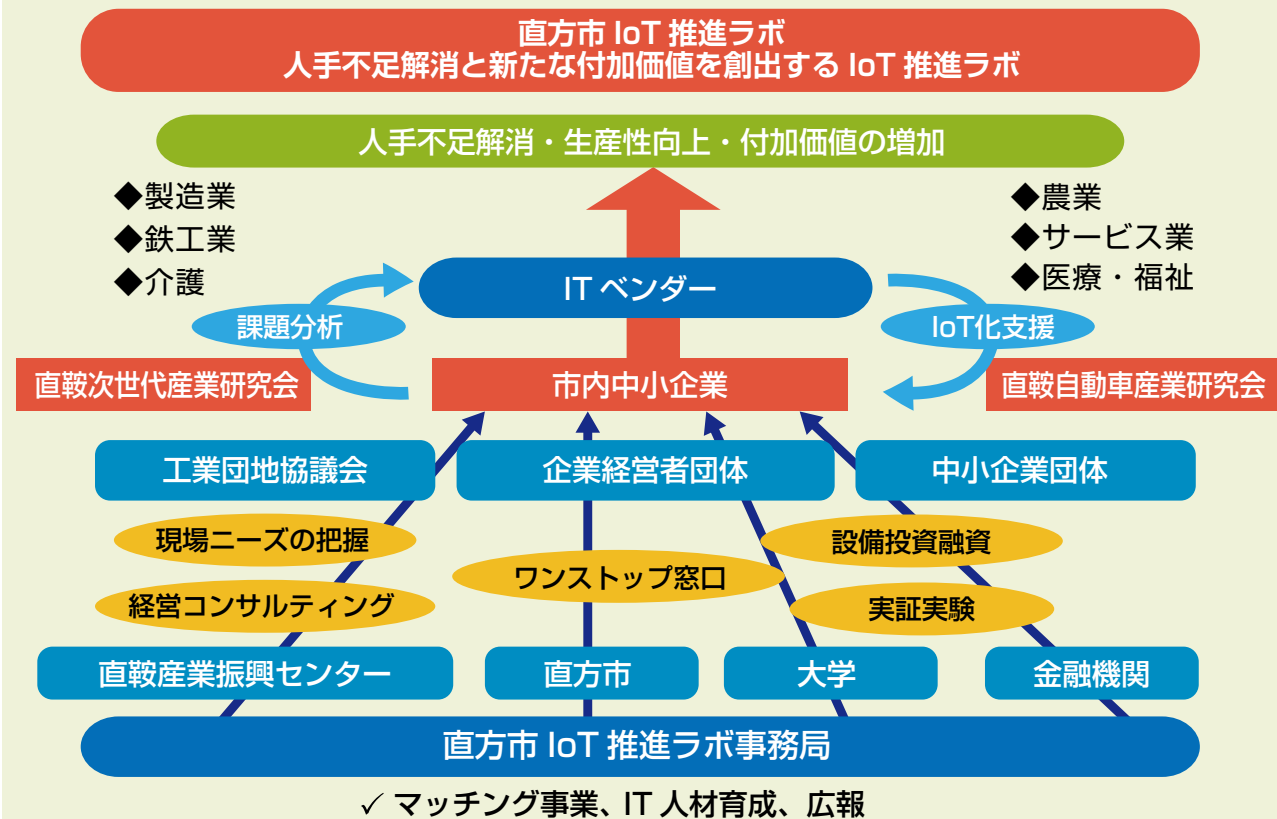
生産性向上と就労促進が進むことで、直方市全体の経済も活性化します。

実現するために

市や直鞍産業振興センターが中心となり、市内の各企業団体と連携します。市内のIoT化を進めるべき地域課題を抽出し、福岡県の協力のもと、県内のITベンダーとマッチング。その後、IT技術を活用し、中小企業の生産性を向上させます。

事業イメージ

企業ニーズや企業の生産上の課題は「直方市IoT推進ラボ」が把握し、入口部分であるITベンダーとのマッチングを進めます。その後は、各企業が独立してIoT化を進め、自立化を図ります。



問い合わせ…商工観光課工業振興係 (TEL 29-3155)